

現代に残る川越城の栄華

川越城本丸御殿は、弘化三年（二八四六）に焼失した二の丸御殿に替わり、嘉永元年（二八四八）に再建された御殿です。現存している本丸御殿は、玄関部分と家老詰所だけです。当時の本丸御殿は、現在の約八倍の規模であったことが、現存する絵図面などでわかっています。

本丸御殿は城主の私的な居住空間であるだけでなく、政務を行う場でもありました。現存している玄関部分は、来客が城主と対面する際に待機する場と考えられます。城主との対面は、南側にあつた「書院」で行われたと想定され、その奥に城主の私的空間、さらにその奥に城主夫人の住居である「奥向」が造られていました。また、玄関の裏側にある長い廊下を抜けると、台所や家老詰所がありました。廊下の各所には、川越藩御用絵師であつた船津蘭山が絵を描いた杉戸があり、彩りを添えています。この杉戸の一部は現在でも利用されています



本丸御殿の大広間

本丸御殿は、昭和四十二年度に大規模な修理をいたしました。それから四十年が経過し、建物の老朽化が進んできました。そこで来年度以降、二年ほどかけて建物の修理を予定しています。修理中は休館することになりますが、建築から百六十年を経た本丸御殿を貴重な文化財として保存し続けるために、ご理解とご協力を願います。

世界の国から、こんにちは！



ドイツ/クリス・ブリュンガーさん

小学生のときに授業で日本の事を学び、興味を持ちました。毎日ライン川にさまざまな国の船が行き交うのを見て育ったので、外国を身近に感じていたのかもしれませんが。

4年前から川越に住んでいます。仕事でさまざまな国に出かけますが、川越は帰ってきたときに懐かしく思える風景がたくさんあります。以前市内を自転車で回ったとき、ほんとうに川が多くて「川越」の名の由来がわかるような気がしました。これからも川越が持つ昔の雰囲気や人の温かさ、そして自然を大切にしたいと思っています。

*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは11ページ・16ページ、相談は23ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・TEL内線2141

どんぐり

編集後記

記録的な暑さだった夏が過ぎ、稲穂も黄金色に色づき始めました。夜が長くなると、なぜかまちの明かりが恋しくなります。ことしは川越城築城550年を記念し、8月下旬から市役所前の太田道灌像、9月下旬から本丸御殿のライトアップを開始。一番街も街路灯が新しくなり、いい雰囲気です。秋の夜長に、ライトアップされたまちをゆっくりと歩く。仕事帰りに、ちょっと遠回りしたくなりそうです▶10月20日(土)・21日(日)に行われる、ことしの川越まつり。あちらこちらから、笛や太鼓を練習する音が聞こえてくるようになりました。以前囃子の一員として祭りに参加していたせいか、囃子の音色を聞くと自然にリズムを取ってしまいます。笛をカメラに持ち替えて、4度目の川越まつり。写真を撮る楽しみも、少しわかってきました。